

「NHK紅白歌合戦」の今昔そして今後・・・

篠崎 辰夫

1969年(昭和44年)の紅白歌合戦の懐かしい映像を YouTube で見つけました。
(下の画像上をクリックしてご覧ください)



<第20回紅白歌合戦のダイジェスト版(17分)>

あの頃の「紅白歌合戦」は良かった！年寄りから子供まで家族揃って茶の間でテレビを囲み、わくわくしながら見ていた。視聴率は70～80%にも達した。今見ると鳥肌が立つほど懐かしい。純粹で、歌もみんな上手い。まさに「歌合戦」だった。

その紅白歌合戦も、時代とともに大きく変化、進化した。昨年の紅白歌合戦、安室、桑田という最大級の目玉歌手を投じ、演出やコント、総合司会の内村光良さんも好評で、高視聴率が期待されたが、結果は40%に届かず、2部制になった89年以降のワースト3を記録したという。とは言っても、今の時代に40%を超える番組は「紅白」を除けば、ほぼ皆無。国民的番組であることには変わりはないのかもしれないが。

視聴率低下の要因は何なのか・・・。内容の質が下がったわけではなく、視聴者の趣味・志向・価値観が多様化した事だと思うが、なにより「演歌・歌謡曲」が減っていることが最大の要因のように思う。我々中高年には、見たことも聞いたことも無い歌手のオンパレードで面白くない。大勢のバックダンサーやきらびやかな舞台演出が過剰で、まるで「紅白バラエティーショー」。「歌合戦」とは名ばかり。見ていて疲れる。

一方で注目なのは、テレビ東京の「年忘れにっぽんの歌」が大きく視聴率を伸ばしたこと。今年から午後4時から10時までの6時間に拡大されたこの番組は、基本的に「司会が曲を紹介し、歌手が歌う」だけのシンプルなものだが、だからこそじっくり曲を聴くことができ、昔の紅白を彷彿させる。このままでは、いずれ大晦日の主役は「NHK紅白歌合戦」から「年忘れにっぽんの歌」にシフトされるのではないだろうか。

今ネット上で「紅白歌合戦は2020年に終わりを告げる」という噂が流れている。大晦日の楽しみ方が多様化し、スマホや「ネットテレビ」の普及で若者世代のテレビ離れが急速に進み、中高年層も「年忘れにっぽんの歌」にシフトするとなると、紅白歌合戦の存亡の危機説はいちだんと現実味を帯びてくる。

さあどうなる「紅白歌合戦」。演歌と歌謡曲を大幅に増やして復活を図るか、このまま年々視聴率を減らしながら消えていくのか、それとも他の番組にシフトされるのか・・・。